

令和元年度 三股町立三股中学校 学校評価シート

4段階評価 4 期待以上(75%~100%) 3 ほぼ期待どおり(50%~74%) 2 やや期待を下回る(25%~49%) 1 改善を要する(0%~24%)

【学校の教育目標】 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成

評価項目	評価指標	具体的数値目標と達成状況	方策・手立て	結果	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等	評価員	評議員コメント
					指標別	総合			
1 確かな学力の育成	「わかる・できる」授業の構築	生徒・保護者・職員の授業評価結果3.0以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「みまたんモデル」の推進 ○ 教育研究所と連携したICT教育の推進 ○ 重点支援校訪問を通じた授業力向上 	生徒 4(84.5%) 保護者 4(91.5%) 職員 4(95.7%)	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「わかる・できる」授業の構築が改善されてきたように思われる。特に今年度から重点支援校訪問を受け、14名の教員が、年間を通して県・町教育委員会の方々から支援をいただいた。この取組が授業力向上へと繋がったと考えられる。 ○ 学習コンクールへの取組は、学級担任の啓発等により、生徒は熱心に取り組めた。 ○ 家庭学習の定着及び「学習の手引き」の活用が充実していない。その結果がテスト等にも表れている。 ○ 読書推進に取り組んではいるが、読書量の増加には至っていない。 ○ 今後も授業力向上は継続していかねばならないが、「応用力」の向上に繋がる「読解力」の向上を学校・家庭で取り組む必要がある。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員の授業への工夫改善が見られる。 ○ 不登校生は学校全体で取り組んで欲しい。 ○ 学習の手引きを有効活用し、家庭での学習の仕方を保護者にも理解してもらう必要がある。 ○ 生徒の授業態度は良いと感じている。
	基礎的な知識・技能の定着	学力・実力テストの結果地区・県平均以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後学習を通じた支援 ○ 学習コンクールの実施 	コンクール 生徒 4(91.0%)	3				
	家庭学習の充実	学力・実力テストの結果地区・県平均以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家庭学習の手引き」の周知と活用 ○ 復習課題の工夫・宅習時間の確保 	手引きの活用 生徒 3(51.3%) 保護者 2(39.87%) 職員 1(15.3%)	1				
	読書活動の推進と読書量アップ	読書冊数、一人年間50冊	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書室からの広報活動の実施 	生徒 3(60.0%) 保護者 2(30.5%)	2				
2 心の教育の充実	文教のまち三股の伝統教育の推進	保護者・生徒・教員のアンケート結果3.0以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつ・校門での一礼 ○ 無言清掃 ○ 自主的・自発的な生徒会活動の活性化 	あいさつ 保護者 4(88.6%) 生徒会 生徒 4(92.38%) あいさつ 職員 4(97.82%) 生徒会 職員 4(91.3%)	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町で一斉に取り組んでいる郷土教育が完全に定着している。その取組が、学校が落ち着いている一因でもある。 ○ 生徒の日常生活において、思いやりをもった言動の数値が高かった。 ○ 特別支援教育においては、職員研修などを実施し、知識の習得はもちろんのこと、共通理解・実践をはかる必要がある。 ○ 毎月のいじめアンケートの実施、それに伴う個別指導等は実施できた。不登校の減少は、関係機関と連携を取りながら、継続した取組が必要である。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活は大変落ち着いている状況である。 ○ 生徒の問題行動が少なくなったのは、学校の組織体制が充実しているからだと感じている。
	いじめ防止対策・不登校生徒等への対応	不登校率3%以下	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ防止基本方針の見直し(迅速適切な対応) ○ 月に1度のいじめアンケートの実施 ○ 教育相談アンケートと相談の充実 	不登校数 1年6 2年10 3年12 不登校率 3.5%	3				
	思いやりの心の育成	保護者・生徒のアンケート結果3.0以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合理的配慮を考慮した特別支援教育の充実 ○ 全教育活動を通じた道徳教育・人権教育の充実 ○ 合理的配慮を考慮した特別支援教育の充実 	生徒 4(88.1%) 保護者 4(93.6%)	4				
3 健康安全と体力の向上	交通安全指導や安全点検の徹底	保護者・生徒・職員のアンケート結果3.0以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通学路の安全確認・登下校指導 ○ 安全点検や授業、部活動でのケガ予防 	生徒 4(99.4%) 保護者 4(90.6%) 職員 3(52.2%)	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交通指導は機会あるごとに常時行ってきた。一部の生徒の状況が、地域からの通報等につながっている。 ○ 学校は「携帯電話の所持を推進しない」と保護者には通知している。しかし、所持率は減少せず、SNS等でのトラブルが学校生活にも大きく影響している。家庭との連携が必要である。 ○ 毎年、部活動は好成績を収めている。担当職員と生徒の努力の賜である。 ○ 本年度よりリフレッシュデー(毎週水曜日)を設定し、定期的な部活動休養日につないでいる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動の好成績は、地域のとても大きな励みとなる。 ○ 今後も学校は、情報モラル教育に尽力してもらいたい。 ○ SNS上のトラブル等については、家庭及び関係機関との連携を図る必要がある。学校だけでは対応できない問題である。
	危機管理意識の高揚	保護者・生徒のアンケート結果3.0以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予告なしの避難訓練の実施・防災教育の実施 ○ SNS普及の対応と、情報モラル教育の充実 	SNS 生徒 4(98.1%) 保護者 4(95%)	3				
	主体的な体力向上や健康意識の育成	保護者・生徒・職員のアンケート結果3.0以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 立腰指導 ○ 栄養教諭と連携した「弁当の日」の実施 ○ 部活動における休養日の推進 	立腰 生徒 4(81.2%) 運動 保護者 4(75%) 職員 4(95.7%)	3				
4 家庭・地域との連携	地域と共にある学校づくり	保護者・職員からの評価3.0以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校ホームページの内容充実 ○ 地域行事への生徒の積極的な参加 ○ 各種通信などによる情報提供の充実 	通信・HP 保護者 4(89.2%) 職員 4(97.83%)	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ HPの閲覧数が14万5千人を超えている。また、必要に応じて安心・安全メールを発信している。 ○ 様々な地域の行事に、生徒はボランティアとして参加している。主催者側からも高い評価を得ている。 ○ 校長通信は校内のみならず地域にも発信している。また、学級通信等も定期的に発信した。 ○ 「働き方改革」については、継続的に保護者・地域へ発信していく必要がある。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域から様々なイベント等に対する協力依頼がある。それだけ学校に対する信頼が厚い。 ○ さらに職員の働き方の改善を行い、授業力向上及び生徒と向き合う時間の確保に努めて欲しい。
	地域教育資源の活用と地域への貢献	生徒のアンケート結果3.0以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三股っ子の会・パノラママラソン等への参加 ○ 「みまたいむ」での地域とのかかわり ○ 地域への貢献活動の実施 	地域 生徒 3(58.3%)	3				
	家庭・地域との信頼関係の構築	保護者・職員のアンケート結果3.0以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 魅力ある学校参観日の計画と運営 ○ 学校安心メールの登録推進と内容充実 	参観 保護者 4(81.5%) 職員 4(82.3%)	4				